

来し方も 又行く方も 今日の日も
われは知らねど み運びのまま

藤原正遠

光 円 寺 報

2010年 11月

〒679-2323 兵庫県神崎郡
市川町甘地 384

後藤明照、由美子(惟蓮)

T&F 0790-26-0162

メール kouenji_dayo

@nifty.com

<http://kouenji-hou.com/>

通信費年間1000円



のらねこ

仏教徒宣言(その八十三)

今日は立冬。穏やかな天気の中、境内の銀杏の実が黄色く色づき晩秋の風に吹かれて一つ、一つ「ポトンク・ポトツ！」と音をさせながら落ちていきます。そして、青々としていた葉も上の方から少しずつ黄緑になり始め、秋の深まりの様子を周りに教えています。移ろい・廻る、いのちを持ったものの「相」を……。このような自然のありようから私たちは何を学ぶべきなのでしょうか？

仏教の四つの旗印(四法印)の一つ「諸行無常」。自分も含めて全ては止まらずに変わり続ける、変化するという事です。私たちは、この事実には納得する時もあるのですが、中々、領けない自分が時として起こって来ます。例えば、私たちは生きていけばどんどんと年を重ねていきます。元気で長生きをしたいという思いと裏腹に、身体は年と共にあちこちに不具合を起こし、調子が悪くなり思うように行かなくなっています。目は見えにくくなり、耳も聞こえにくくなり、歯は抜け、記憶力は悪くなる。そして、足・腰・膝は痛くて、歩いたり・座ったりと一つ一つの動作が出来にくくなる。もつとあの人の様に良くなったらいのいのか、せめてあれぐらいに……。と、いくら願っても、そのように自然にそうなる行くのです。いのちのすがたとして。自分の都合を超えて様ざまなことが起こりやがて収束して行くのですが、日常の中ではそのことに振り回されてしまいます。でもそんな自然のはたらきと同じように、何時も私に阿弥陀仏がはたらきかけているのです。

それを親鸞さんお手紙(末燈鈔第五通)に「自然(じねん)と云うは、自はおのずからという。行者のはからいにあらず、

ご安心

藤原正遠師

私は若い時から、ただ心の「安心」一つが欲しかったのです。そうして今はお念仏の摂取をいただきまして安心させてもらっております。それは単なる個人の安心ではございません。有限の個人の安心は「賽(さい)の河原」でありまして、私の安心は有限の安心あるいは不安心をそのまま摂取して下さるところの大法界の安心でございます。

念々、心の安らかな日もございます。また、まことに手のつけられぬ不安心、苦悩の日もございます。天気のようなものでございます。それをそのまま摂取して下さっている南無阿弥陀仏のお慈悲でございます。

まことに、お念仏は、身も心も生み出して下さった母親をしたう子供の心でございます。子供は困れば困るほど母親を呼ぶように、実は母親が摂取に来ているのでございます。お念仏もそれと同じく、私が称えますが、実は大宇宙の大生命の根元の南無阿弥陀仏さまが、困れば困るほどご摂取に来て私にやすらぎを与えて下さるのでございます。

ご摂取にあった私は万物がすべて阿弥陀仏のご活動体からの所産と見える眼をもらい、私はお陰さまで大安心をいただいております。

来し方も 又行く方も 今日の日も

われは知らねど み運びのまま

は何も知りませんけれども一切が仏さまのお運びのままという歌でございます。

生きるものは 生かしめ給う 死ぬものは 死なしめ給う

われに手のなし 南無阿弥陀仏

一切が南無阿弥陀仏のお運びでございます。これは三十年前の私の歌でございますが、今もまったくこの通りのご安心で念々一日一日生活をさせてもらっているのでございます。真にありがたいことでございます。

南無阿弥陀仏

・・・光源寺テレフォン法話より

しからしむということばなり。然いはいはしからしむということば、行者のはからいにあらず、如来のちかいてあるがゆえに。」と言われています。自然とは、「おのずからそのようになる」事で、自 も然もどちら人も人間の人為的なものない状態で、又、いかなる人為的なものをもってしても通用しない人為を超えたはたらきを言います。今私たちが使う自(し)然ということばよりもはたらきという深いまなざしのある言葉が自(じ)然で、阿弥陀仏のはたらきそのものなのです。だから

ら「行者のよからんともあしからんともおもわぬを、自然ともうすぞとききて候」と言われて、私たちの善し悪しのはからいの囚われを離れるようにと。それは、何が善で、何が悪なのか、善悪を根本から問い返す出会いが起ると「善悪の二つ総じてもって存知せざるなり」と、そんな世界が見えてくる。そんな世界が見えるはたらきが、私に起こって来た。そして、次には「みだ(弥陀)仏は、自然のようをしらせんりようなり」と。「よう」とは「様」。「りよう」とは「料」でだてです。と言っておられます。それは、「弥陀仏のはたらき」が自然そのもので、そのようにあらしめるということです。だから、いつも「自然」として阿弥陀仏が、はたらき続けて来ているのです。その自然から見ると、物事は善いもの、悪いものというような私たちの価値では「量る」ことが出来ない。「無量」なのだ。そして、自然の有り様も又「無量」なのです。私に起こって来る、喜び・悲しみ・楽しみ・苦しみ・哀しさ・寂しさ・嬉しさ・も「無量」です。量ろう量ろうとする心が敗れ(破れ) 諸行が無常であることを受け取る時に、本当にあった「無量」なるものに出遇うのかもしれない。

南無阿弥陀仏

釈明照